

机邊だより

倉橋惣三

○幼稚園の改良(三)

(スタンレーホール氏)

第三 幼児の興味と本能

フレーベルは實に稀代の教育的天才で、其の教育説は誠に卓越したものではありませんが、然し其れは何時でも、如何なる世でも價値あるものとは云ふことは出来ない。幼児の本性に就いてフレーベルの説いた所と、近世科學の説く所とは其の間に調和したい點が數多ある。吾人は幼児教育の方法を擧げてフレーベルの教育説に一任すること出来ない、直接に其の職に當つて居る人は勿論のこと、總べての教育者が、幼児教育の理想と方法とに關しては益々新研究を施すべきであらうと思ふ。其れに就いては先づコメニユースとペスタ

ロヂの意見を参照することが必要である、此れ等の人々の書物には餘人の企て及ばない洞察と識見とが包含されてある。次には生物學と生理學と發達心理學の光明に依つて幼児發達の特質と階段とが明かにしなければならぬ。其れに關して必要なことは、幼児の興味と本能とを自由に働かせることと云ふことである。西洋で行はれた幼児教育の歴史を調べると、幼児を教育する目的に就いて二つの異つた見解があつた、一つは幼稚園を以て全く小學校の豫備と見るもので、幼児をして出来る限り小學校生徒の型に倣まるやうに教導し、進んでは社會の一員とし、國家の一員としても在來の型に最も能く當て倣まつたものを造り出さうとする形式主義であつた、之れに反して他の一方は、幼児の興味や本能に斯る干渉や束縛を與へないで、此れに自由な活動を與へ、本然の發達を爲さしめやうとする自由主義であつた。惟ふに幼児の自發性に自由の活動を許すことは、後來の健全な

發達に取つて重大な關係を持つて居ると云ふことは、今日一般の人々が承認して居る所である、教育と云ふことは固より自由放任と云ふことではない、然しながら三歳より六歳に至るまでの幼児に組織的教育を施すことは其の當を得ない。出来るだけ多くの自由と、出来る限りの少ない制御とを以て完全な發達を計らねばならない、換言すれば幼児を第一に健康な身體となさなければならぬのである。此れと同時に他方に於いては、彼等の興味と本能の働きに就いて充分綿密に研究することが必要であるのであります。赤子に就いてはプレーヤーやダーキンを始め多くの學者が熱心に研究した。又小學兒童に就いても可なり精細に攻究せられて居る。然るに其の中間に在る幼稚園の兒童に就いては、得る所が甚だ少ないのである。フレーベルは幼兒の感情や行動や發達に就いては實に能く綿密の觀察をしたものではあるが、然し彼れの研究は只彼れの身邊に集まつたものゝみに

留まるので、即ち所謂 チャンス・オブ・サー・ペーシオン、偶然的の觀察に過ぎないので、其の結果は精確と詳細の點に於いて缺けて居るのであります。其の上彼れ一流の哲學が其の中に混入して益々其の光明を覆つて居る。近世科學が幼兒の特性に就いて知る所も亦甚だ乏しいものではあるが、此れから其れに就いて大略述べやうと思ふ。

(イ) 言語

子供は話しをすることを好むもので、父母、教師、又は身邊の誰れ彼れに就いて色々と話をして聞かせる。玩具、人形、犬、猫などを相手としても能く話をする。何とかして自分の思ふことを發表せやうと苦しむ、此れが發表出來た時には非常に喜ぶのであります。此の言語の本能を重んじて、早くから此れが發達を計り、練習を怠らないやうにせなければならぬと云ふことは殆んど總べての學者が主張する所である。幼稚園に於いては此の本能の發達を努めねばならぬのである。

次には外國語を幼稚園の兒童に授けることの可否であるが、此れに就いては西洋の學者は二派に分れて居る。一方の人々の主張に依ると、自國の言葉も思ふやうに出来ない間に、他國の言語などを教へ込むと、双方が混同して何れが何れとも分ち難く、爲めに其の兒童の言語の發達を妨げることが夥しいと、然るに他の一方は、幼稚園の兒童には假令自國語だけを教へた所が、其れが決して其の間に完全に使へるやうになるものではない、言語本能の最も能く活動する此の時代に外國語の初歩を教へて置くことは極めて必要である、實際の事實に徴するに、外國語を授けた幼児と授けなない幼児との間には、自國語の發達に何等の相異がないと云ふのである。大體に於いて後者の意見が優勢で、且つ實行せられて居るのである。

(ロ) 好奇心、知識の本能

幼稚園時代の兒童が何事に就いても質問を起すことは普ねく人の知る所で、一つの話をすれば、

其れから其れへと續きを尋ねて際限がなく、新しいものを見れば色々の疑問を起し、中には大人が思ひも寄らぬ珍らしい質問があり、又難かしいものもある。好奇心又は知識欲の本能は此の時代の最も顯著な特徴の一つと數へることが出来る。此の見たい、聞きたい、いちりたいの本能的好奇心を培養して、兒童が周圍の一切のものに就いて出來得る限り多くの感官を練り馴らすことは後來の發達に取つて非常に大切なことである。若し此れを怠つたならば、遊戯に左程興味を感じないやうになる、又此れが後年發達する科學上の興味にも至大の關係を有つて來るのである。『幼児が大きな眼を開き、他の一切のものを忘れて、目前の事物に注意する様を見よ、此の時代から既に教育が行はれて居ることが解る。玩具を壊したり拵へたり、又は珍らしい色を視詰め、珍らしい音に耳を傾けるのは、やがて新器械を發明し、新星を發見する初歩の働きに外ならない、されば種々の

方法を用ひて此の本能を發展成長せしめることは
 幼児教育の主眼である』とスペンサーは述べて居
 る (H. Spencer's Education)

(ハ) 遊戯本能

遊戯本能の大切なものであることは今更此處で
 くとくしく述べ立てる必要はないので、幼稚園
 の教育は大部分此の本能の上に建てられて居るの
 である。其れ故此處では只遊戯の生物學的解釋に
 就いて一言述べやうと思ふ。

遊戯を生物學上より説明するものに三つの異な
 る説がある。第一はミルレル及びスペンサーの唱
 へた所で、人は幼少の時代に於いては身體の精力
 が非常に旺盛である。此の充滿せる精力は何とか
 して外部に溢れ出づる道を得なければならぬ、
 而して此の道が即ち遊戯であると云ふので、遊戯
 は即ち精力充足の結果に外ならないと云ふのであ
 る。第二は遊戯は消費せられた精力を回復するも
 ので、疲勞した精神は之れに依つて一種の休養を

得ると唱へ、當さに第一説の反對に立つものであ
 る。第三はグルース教授 (Prof. Groose) の主張す
 る所で、遊戯的活動は本能で、大人の自覺せる真
 面目の活動の先驅者である。『動物は幼少なるが爲
 めに遊戯するのではなく、遊戯する爲めに幼少な
 のである。遊戯は單に精力を放散する道具でもな
 ければ、又休養の消極的方法でもない、動物に就
 いて見るに、此の本能を働かすことが充分でない
 時は、成長後諸種の生命保護の能力の發達が充分
 でない』と云ふのである (Play of Animals 參照)

(ニ) 美的本能

幼兒は又一般に繪を書き、音樂を聞き、繪畫を
 眺めることを好み、粘土細工、剪紙細工、折紙等
 を喜ぶものである。此れに就いて注意すべきは、
 幼兒が此等の事を爲すは、美しいものを造らうと
 するよりも、自分の思ふ所を表はすと云ふ方が一
 層強い欲求であると云ふことである。

(ホ) 社會的本能

幼稚園時代の兒童を他の同年輩の兒童と遊ばせることの必要であることは、早くから認められて居る所である。コメニユースは此れが幼兒の知識發達の上にななる助けを與へると云ひ、フレーベルは徳性涵養の上に大切であると云つて居る。或人々の考に依ると此の時期の兒童にあつては其の遊戲も興味も全く個人的で、餘程成長した後でなければ他人と一所に遊ぶことは出来ない云ふのである。然し幼稚園の教育に多年經驗ある人々の意見に依ると(例へばシツソン女史の如き)幼兒は若し之れを自由に放任して置く時は數人自づと相集まり、其の中の一人が頭となつて色々の遊戲をするもので、社交的傾向は早くから表はれるものであると云ひます。現今大部分の學者は後者の説に賛成し、人の社交的天性及び其れが極めて幼少な時から表はれることを認めて居る。

(ト) 獲得と所有

幼兒は色々のものを集めることを好むもので、

此れが財産及び所有の本能の初めの形である。フレーベルも此の集合欲の必要を認め、兒童の集めるもの、價値は毫も顧みるに足るものではないが、集めやうとする働きが大切で、自然と研究せんとする心も畢竟此れが發達したものに外ならないと云つて居る。

(ト) 數の本能

幼兒には何時から數を教へたら可いか、又其れを教える最も可い方法は何か、と云ふことは幼稚園教育に就いて最も入釜敷く論せられた問題である。其れ故今此處では、數の觀念は如何にして生ずるか、又幼兒は何時から數を習ふかを述べやうと思ふ。フイリツプス教授(Prof. Phillips)の研究に依ると、數は連續の觀念より生じ、連續の觀念は感覺の連續、例へば呼吸とか時計の振りの音の如きより生ずるとのことである。千百人の幼兒に就いて實驗した所、其の中の九割は、讀むことよりも書くことよりも早く數ふることを覺えた。是

れに依つて見ると幼稚園に於いては餘程早くから
 幼兒の數の觀念を發達させることを計らねばなら
 ない。

(チ) 話の本能

幼兒が話を非常に好むと云ふことは既にプレト
 ーの時代から深く注意せられたことで、此れに依
 つて幼兒の想像や感情が豊富となり、又感覺のみ
 に全く心を支配せられることを防ぐやうになるの
 である。

兒童の爲す所は種々雑多で、何の活動は何の本
 能の表はれたもので、其れが成人の後には何うい
 ふ風に變形するかと云ふことを精細に分析説明す
 ることは、今日の科學の企て得ない所でありませ
 が、大略上に述べた八つのものが幼兒の代表的
 活動と見ることが出来ます。此れ等の活動は固よ
 り別々に表はれるものではなく、其の間には互に
 密接不離の關係があつて、他と引き離して一つの
 みを特に發達させると云ふことは出来ない、何れ

も一個の有機體の活動であることを忘れてはなら
 ない。幼稚園の教育は要する所、此の本能的活動
 の上に建てらるべきものである。若し幼兒の本能
 に至大の注意を拂はずして幼稚園教育を施したな
 らば、其れは必ず失敗に終る。恰も植物が適當
 の境遇に置かれるならば、芽を出し、葉を出し、
 花を開いて、實を結ぶやうに、幼兒も適當の境遇
 の下には完全な發達を成し得るだけの潜勢力を具
 へて居る。然らば幼稚園の根本問題は、如何にせ
 ば此れ等の潜勢力を充分に發展し得る適當の境遇
 を造り得るやと云ふことに歸するのである、ルー
 ソー、ベスタロツヂ、フレーベル等は何れも皆此
 の問題の解決に苦心したのであります。

此れに就いて注意すべきことを一二申し上げま
 すれば、幼兒をして成るべく廣い野原に遊ばせ、
 清潔の空氣を呼吸し、自由に、愉快に、活潑に遊
 ばせることが必要である。人の一生は人類の發達
 の全歴史を繰り返すものと云はれますが、潤いた

平原に自由に生活した種族ほど最も多く發達した所を考へれば、此の事は甚だ大切であらうと思ふ次には斯る野原にあつて幼児をして思ふが儘に外物と接觸させることである。幼児の注意を惹くものは博物の標本として箱の中に收まつて居る蝶ではなくて、野原の間に花の中を飛んで居る蝶である、紙の上に描かれた牛ではなくて、野原の上にあ青草を食つて居る生きた牛である、箱の中のものや紙上のもものでは幼児の精神中に入らない。最も深く彼等の注意を惹き、精神中に入つて、後年の發達の基礎となるものは實物の動いて居る姿である。

ピネー (Binet) と云ふ學者は二人の自分の子供に就いて、幼児の精神は外物に對して何ういふ反應を起すか、又何ういふ風に外物を表象するかを實驗した。一人の子供は四歳、他の一人は二歳半で一ケ年に亘つて試みた。其の結果に依ると、此の二人の子供は、外物の色や形や大きさなどには注

意せずして、其のものゝ効用に第一注意を向けた。例へばバンと云へば、其の形や色を知るよりも、食ふものであることを先づ知つた、同様に小刀とは切るもの、椅子とは坐るもの、机とは本やランプを置くものであると認めたのである。アールバース (Earle Barnes) は今少し大きな子供に就いて此れを實驗した所が、矢張り同じ結論に達した。此れに依つて觀ると兒童の眼は如何に外物を觀て居るかに略推察出来るのであります。

▽家庭に御注意△

東京女子高等師範學校附屬幼稚園の來年度幼兒募集は、明治四十年四月二日より同四十一年四月一日迄の間に出生の幼兒に限り、申込期限は明年二月一日より同廿八日迄なりと云ふ。